

多職種との連携、橋渡し

鶴見区在宅医療・介護連携相談支援室の取組み

臼井 智美

区の概況



人口111,533人 R5.9-10月現在)

(65歳以上人口 25,988人)

高齢化率23.3%

コロナで活動が制限された3年間

- 今求められていることは何か？
- 課題を明確にする必要があるのではないか？

課題を明確にするために

- ① R2 介護事業所アンケート
- ② R4.3 多職種研修会アンケート
- ③ 相談内容の振り返り

テーマに対する背景・課題

取組みのきっかけ①

【R2介護事業者アンケートの内容】

- 事業者アンケートの結果から今後連携を強化したい職種の1位が**主治医**
- 連携が上手な人は**相手に配慮できる人**
- コロナ後の**主治医が求める連携方法**を明確にする必要がある
- ガイドブック作成から5年が経過し情報を刷新する必要がある

テーマに対する背景・課題 取組みのきっかけ②

【R4. 3多職種グループワークアンケートの内容】

もっとグループワークの時間が欲しかった
今後も意見交換ができる研修会をしてほしい
オンラインではなく顔を合わせての研修を希望します
他の班との関わりが欲しかったです
区役所も交えて欲しい
集合型の研修を増やして欲しいです

テーマに対する背景・課題 取組みのきっかけ③

【相談内容の変化】

相談件数の減少

→コーディネーターの役割を担える人材が育成できている

内容の複雑化

例) 糖尿病内科の専門医の照会

女性医師による訪問診療の照会

在宅での輸血が可能な医療機関の照会

緩和ケア病棟がある医療機関の照会

テーマに対する取組み①

【改定版 鶴見区医療ガイドブック制作】

医師会・歯科医師会・薬剤師会に協力頂き
連携の方法を分かりやすく

『医療介護連携タイム』として見える化

5年ぶり医療介護資源の情報を刷新

テーマに対する取組み①

新医療ガイドブックの見どころ

診療科目	内科 小児科									
診療時間	時間帯(時間を記入下さい)		月	火	水	木	金	土	日	備考
	午前診 9:00~12:00		○	○		○	○	○		
	午後診 17:00~19:00		○	○		○	○			
	訪問診療 (実施している場合)									
医療介護連携タイム	来院時アポイント		必要 必要 ・ 必要なし							
	優先順位	対応方法	誰宛	時間帯						備考
	1	TEL	院長	12:00-12:30						
	2	FAX	院長	12:00-12:30						
	3	TEL	地域連携	9:00-15:00						
	4									
	コメント									
施設設備	エレベーター	○	駐車場P	○ 近くのコインパーキング有						
	車椅子対応 (バリアフリー)									

旧ガイドブックにはなかった医療介護連携タイムを追加。

連携の取りやすい時間を記入し、その手段として、電話・FAX・面談を記入し対応可能な曜日に印をつけてもらう事で、多職種との連携を行いやすくしました。

テーマに対する取組み①



只今
校正中です。
☆3月完成予定☆

テーマに対する取組み②

【多職種連携イベントの開催】

R5. 10/18 「連携しやすい人ってどんな人??」

～グループワークで共有しよう～

内容：付箋を用いた2回のグループワークを経て成果物を作成し、投票で「連携しやすい人の人物像」のNo.1を決定

参加人数110名

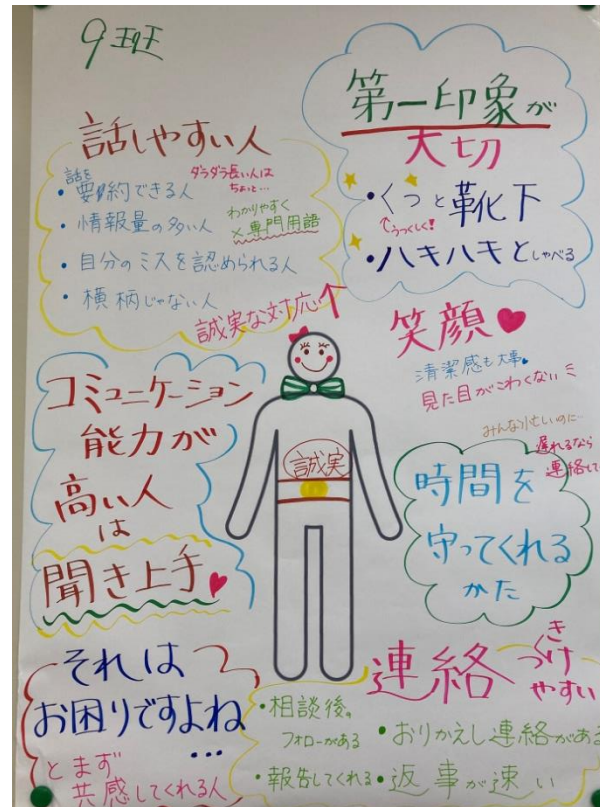
R6. 2/17 多職種連携研修「困難事例を考えよう」

事例検討会開催

テーマに対する取組み②



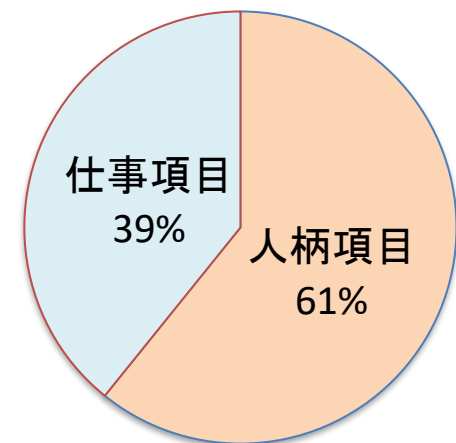
テーマに対する取組み②



テーマに対する取組み②

- 参加者110名（医療職35名、介護職70名、その他5名）
- 研修で利用した付箋 390枚を分析
- 内容は人柄項目と仕事項目に分かれた
- 全体の割合と医療職、介護職ごとの分布はほぼ同じ

付箋の分布



テーマに対する取組み②

【人柄項目】

介護職

1位	話しやすい	21.7 %
2位	話を聞いてくれる	15.8 %
3位	否定しない怒らない	10.5 %
4位	相手のことを考えてくれる	9.2 %

医療職

1位	話しやすい	28.6 %
2位	話を聞いてくれる	12.9 %
3位	笑顔	11.4 %
4位	相手のことを考えてくれる	8.6 %

テーマに対する取組み②

【仕事項目】

介護職

1位	連絡が早い、取りやすい	35.6 %
2位	専門的な知識や考えがある	22.8 %
3位	対応が早い	16.8 %
4位	連絡ツールが同じ（MCS, LINEなど）	8.9 %

医療職

1位	専門的な知識や考えがある	34.2 %
2位	分かりやすい説明	21.1 %
3位	連絡が早い、取りやすい	18.4 %
4位	対応が早い	13.2 %

テーマに対する取組み③

【通信の内容の変更】

相談内容や解決事例を紹介を追加

社会資源の照会で該当が少ない場合は区内だけでなく近隣区も含めて**広域的な情報**を発信

テーマに対する取り組み③

2023年
4月発行 **Zaiikai 通信**

住んでよかった！働いてよかった！と誇れる鶴見区に、医療・介護の連携をめざします！

鶴見区在宅医療・介護連携相談支援室

住所 538-0053 大阪市鶴見区鶴見3丁目6-37
TEL 06-6991-9333 FAX 06-6991-9339
MAIL coordinator@tsurumi.osaka.med.or.jp

多職種連携イベント マナー違反反取締講座 ～気づかずマナー違反していませんか？～

去る、3月25日（土）に多職種イベントとして3年ぶりに、@鶴見区民センター日建ホールにて多職種型で開催させて頂きました。新型コロナウイルスが猛威を振るい始めて数年・・・多職種の研修やイベントを行う事が難しくなっていました。感染対策をしっかりと、皆様のご協力を得て無事開催することができました。土曜日の14時から開催という日程でしたが、85名のさまざまな専門職の皆さんに参加していただきました。ありがとうございました。今回の多職種連携イベントは、医療と介護の連携において、双方のマナー違反～気づかずマナー違反していませんか？～と題し、よりよい関係を構築していく事が目的です。

医師：初めて診る患者さんへ問診をしっかりと心がけています。患者さんはとても大切なこと。ケアマネジャー：情報もとても大切で、小さな連携をしていきたいと思っています。

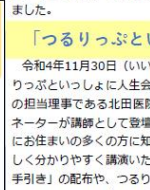


イベントの最後は北田医師一先生に登壇いただきました。鶴見区の患者さんのために頑張ることを目指しています。

当日参加が難しかった専門職の皆様、少しい資料なら残数がありますので、お早めにご連絡を頂ければご用意させていただきます。まずはこのブックを見ていただくことで、グループワークへと入り、各職種の方にそれぞれのグループに分かれて、同じ事例を通して皆さんでディスカッションをしていただきました。グループからの意見で一番多かったのが、自分たちの思い込みではなく、関わる人との情報共有を確認、問い合わせなどをしっかりと行えば良かったなどの意見がありました。



7名～8名の各職種を配置する形で専門職のグループを12班作成しました。初めての顔合わせの方々も、顔の見える関係が構築できる、多職種ならではの久しぶりのスタイルですね・・・もちろん感染対策は実施しています。



「つるりっぶと」
令和4年11月30日（い）
りっぶといっしょに人生会議をしよう
人生会議をしよう
北田一先生の話「人生会議をしよう」

鶴見区医療・介護連携に関するアンケート ふりかえり

鶴見区在宅・医療介護連携相談支援室、鶴見区地域包括支援センター、鶴見区西部包括支援センター、鶴見区南部地域包括支援センターが実施した「鶴見区医療・介護連携に関するアンケート」。
鶴見区内の医療介護連携の現状把握と今後の連携の向上を目的に、令和2年度は区内の全介護事業所、令和3年度は鶴見区医師会に所属される実地医家の先生方、数多くの方々にご回答いただきました。
2つのアンケートには、共通の設問が設定されており、その結果を比較することによってお互いの認識のちがいを理解し、より緊密な連携を実現するヒントが見えるのではないのでしょうか。

まずはじめに、設問「多職種で顔の見える連携がとれていると思えますか？」の結果比較（図1）をみてみましょう。



「非常にそう思う」と「そう思う」と回答した方の割合は、実地医家が全体の 20%、介護事業所は全体の34.7%となっており、明らかに差がありました。この結果を理解する手がかりをみてみます。

医師のホンネ 「もっともっと密に連携したい！」
図2は、実地医家アンケートの設問「各職種と円滑な連携がとれていますか？」の結果を統合したグラフです。棒グラフは、「現時点におけるその職種との連携の円滑さ」を、一方、折れ線グラフは、「その職種と今後ネーターが講師として登場し、今後連携を強化していきたいか」を示しています。

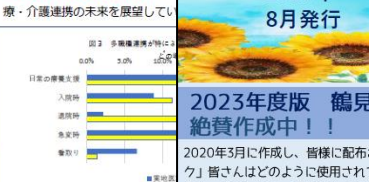
医師同士の連携は現時点で円滑にあり、さらに強化していきたいと考えています。訪問看護との連携に関しては、安定した手引きの配布や、つるりっぶとを今後も継続していきたいという思いが表れています。

このように、棒グラフの上端と折れ線グラフの間のすき間を、連携の「伸びしろ」と捉えると、鶴見区の医療・介護連携は未来の可能性に溢れています。



「未来に向けて医療・介護のより良い連携を！」
共通設問である「多職種連携が実現したいか」と思っていますか？

面はどの場面ですか？」（図3）
感じる課題は何ですか？」（図4）



2020年3月に作成し、皆様に配布させて頂いた「鶴見区医療ガイドブック」皆さんはどのように使われていますか？掲載されているのは、医師会・歯科医師会・薬剤師会の会員の皆様にご協力をお願い、開業されている要項を記載していただいています。医療と介護がよりよい連携の情報がたくさん詰まっています。今期、その鶴見区医療ガイドブックの改定を行う為、新しく「連携タイム」と言われるものを追加させて頂く予定にしています。その「連携タイム」とは・・・医療と介護の連携の為、直接話し合いができる時間として可能な日時を掲載させて頂いています。2020年作成の医療ガイドブック

掲載されている情報と共に連携タイムを追加掲載し、本年度中に皆様の元へ届けさせていただきます。改訂版もお楽しみにして下さい。

鶴見区在宅医療 顔の見える医療と介護 連携をしよう

本年度も医療と介護の架け橋めすので、何でもお気軽に

今年度も、研修施設として

3月に行われた多職種研修会のアンケート結果です。当日回収したアンケートは参加者85名中、76件、回収率89.4%でした。80%以上の方に研修会に満足したと回答頂きました。

満足81% 口やや満足14.5% 口どちらでもない2.6% 口やや不満1.3% 口不満0%

また、情報交換会についても、73%の方が満足と回答。好評だったのが、多職種連携のグループワークでした。

満足86.8% 口やや満足13.1% 口どちらでもない0% 口やや不満0% 口不満0%

2023年度版 鶴見区医療ガイドブック 絶賛作成中！！

2020年3月に作成し、皆様に配布させて頂いた「鶴見区医療ガイドブック」皆さんはどのように使われていますか？掲載されているのは、医師会・歯科医師会・薬剤師会の会員の皆様にご協力をお願い、開業されている要項を記載していただいています。医療と介護がよりよい連携の情報がたくさん詰まっています。今期、その鶴見区医療ガイドブックの改定を行う為、新しく「連携タイム」と言われるものを追加させて頂く予定にしています。その「連携タイム」とは・・・医療と介護の連携の為、直接話し合いができる時間として可能な日時を掲載させて頂いています。2020年作成の医療ガイドブック

掲載されている情報と共に連携タイムを追加掲載し、本年度中に皆様の元へ届けさせていただきます。改訂版もお楽しみにして下さい。

3月に行われた多職種研修会のアンケート結果です。当日回収したアンケートは参加者85名中、76件、回収率89.4%でした。80%以上の方に研修会に満足したと回答頂きました。

前回の多職種研修会アンケート結果

満足81% 口やや満足14.5% 口どちらでもない2.6% 口やや不満1.3% 口不満0%

また、情報交換会についても、73%の方が満足と回答。好評だったのが、多職種連携のグループワークでした。

満足86.8% 口やや満足13.1% 口どちらでもない0% 口やや不満0% 口不満0%

また、情報交換会についても、73%の方が満足と回答。好評だったのが、多職種連携のグループワークでした。

満足86.8% 口やや満足13.1% 口どちらでもない0% 口やや不満0% 口不満0%

鶴見区在宅医療・介護連携相談支援室
住所 538-0053 大阪市鶴見区鶴見3丁目6-37
TEL 06-6991-9333 FAX 06-6991-9339
MAIL coordinator@tsurumi.osaka.med.or.jp

住んでよかった！働いてよかった！と誇れる鶴見区に、医療・介護の連携をめざします！

医介連携に寄せられた相談事例

令和5年4月から7月までの相談事例件数は 4件です。ここで相談された症例の一部をご紹介します。

相談1：同区内介護支援専門員からの相談。80代女性老健入所中であるが、1か月だけ自宅へ戻り在宅医療を探してほしいと相談。1か月後は再入所となるため、期間限定での主治医となる。連携室として、自宅近隣の在宅医療件数をご紹介するも、期間限定での訪問であることや、日時指定の在宅訪問となることから、訪問での受け入れが難しいとの返答が多く、診療訪問ではなく外来であるなら可能との返事があり調整していた。複数の医療機関に相談し、ようやく一件の医療機関が受け入れを承諾。この相談から見えてくることとして、老健を使用されている患者様は一定の期間経過をへて次の居場所へ移動となる。その際の主治医として、在宅での主治医が必要になることは今後増えてくる相談であると考えます。在宅医として、日ごとの業務に支障がないか、今後このような臨時の対応が可能な医療機関が増えることを願っています。

相談2：同区内病院入院中の区民（患者）様より相談。転床を希望しているが、病院に対応してもらえず、自分で病院を探している。どこか受け入れ先はないか？との相談。鶴見区連携室としては、区民からの相談は受付はてあらず、区民の方に詳細を聞いてみると、相談した病院がここに連絡した次の病院を見つけてくれると言われたようです。話を伺い、まずは現病院内のケースワーカーに相談するように伝え、相談室を紹介した病院ケースワーカーには鶴見区では患者様からの相談受付の前に担当ケースワーカーに相談してもらいように説明しました。

新規・継承病院のご紹介

令和4年4月～令和5年3月までに鶴見区医師会・新規・継承された医院のご紹介をさせていただきます。

令和4年5月 おとぎ耳鼻咽喉科クリニック
住所：鶴見区諸口4丁目5番17号 ☎69113350

テーマに対する取組み③

医介連携に寄せられた相談事例

令和5年8月から11月までの相談事例件数は8件です。ここで相談された症例の一部をご紹介します。

相談1: 他県の総合病院からの相談。脳梗塞で入院され現在STによるリハビリ中。
自宅へ退院希望されておられSTの外来リハビリ病院の照会希望。区内2ヶ所の
外来リハビリ病院の紹介。

◆相談事例では外来対応の言語聴覚士（ST）の照会がありましたが、鶴見・城東区内の
事業所で言語聴覚士（ST）が在籍している事業所のご紹介です。

鶴見区	おかもと訪問看護ステーション	慶生会訪問看護ステーション
	鶴見老人保健施設ラガール訪問リハビリ	訪問看護ステーション北田
	ユニケア訪問看護ステーション	
城東区	訪問看護ステーションおのみち	

相談2: ○○ケアプランセンターから問い合わせ。緩和ケア病棟もっている病
院
社会資源を教えてください。

◆他県はもとより、区内からも、社会資源の提供の相談依頼が多くありました。
鶴見区内には、緩和ケア病棟はなく、緩和ケア病棟を探しておられる方には他
区の病院を
ご紹介させて頂いております。

詳しい情報は大阪市緩和ケア医療機関マップ 日本ホスピス緩和ケア協会にも
ありますので
参照ください。

大阪市緩和ケア医療機関マップ  日本ホスピス緩和ケア協会 

- ・城東区 東大阪病院 緩和ケア病棟 23床
- ・都島区 大阪市立総合医療センター 24床
- ・天王寺区 湯川胃腸病院 緩和ケア病棟 34床
- 大阪赤十字病院 緩和ケア病棟 20床
- ・東淀川区 淀川キリスト教病院 緩和ケア病棟 27床 となっています。

緩和ケア病棟と緩和ケア病床の違いについて

「緩和ケア病棟」は、厚生労働省が定めた施設基準を満たし、地方厚生局等に届
出を行った医療機関において、緩和ケアを必要とする患者に対して診療を行う病棟
です。「緩和ケア病床」とは、承認はされていませんが、緩和ケアを行う病床のある
医療機関を指します。
がんに伴う施設として緩和ケア病棟やホスピスと呼ばれるものがあります。
緩和ケア病棟は、つらさをコントロールして普段通りの生活を送る病棟で、ホスピ
スも余命近い患者さんが、最期まで希望通りに生きる療養の場です。緩和ケア病棟
とホスピスで実施している治療やケアはほぼ同じであり、明確な線引きはされては
いません。

大阪府下緩和ケア病棟 一覧

淀川キリスト教 病院	大阪市東淀川区	松下記念病院	大阪府守口市
湯川胃腸病院	大阪市天王寺区	市立東大阪医療 センター	大阪府東大阪市
大阪赤十字病院	大阪市天王寺区	星ヶ丘医療セン ター	大阪府枚方市
小松病院	大阪府寝屋川市	市立ひらかた病 院	大阪府枚方市
千里中央病院	大阪府豊中市	耳原総合病院	大阪府堺市
ガラシア病院	大阪府箕面市	近畿中央呼吸器 センター	大阪府堺市
吹田徳洲会病院	大阪府吹田市	ペルランド総合 病院	大阪府堺市
彩都友誼会病院	大阪府茨木市	阪和第二泉北病 院	大阪府堺市
ほうせんか病院	大阪府茨木市	市立岸和田市民 病院	大阪府岸和田市
高槻赤十字病院	大阪府高槻市	和泉市立総合医 療センター	大阪府和泉市

まとめ

- 現在、連携・橋渡しをテーマとして3つの取組みを実施している
- 今後この取組みによる成果の検証を行うとともに、新たな課題の解決に向けて取組みを実施していく